



千八百七十八年
箱館港貿易報告

大藏省
翻譯課

3429



414
A 3142
25 24



大正十一年四月
大隈侯爵邸可贈

峯源次郎 譯

千八百七十八年箱館英國領事貿易ノ報告
一千八百七十八年四月三十日箱館英領事館

謹テ茲ニ一千八百七十八年箱館港ノ貿易及ヒ船積ノ報告ヲ閣下ニ奉呈スルノ榮ヲ得タリ蓋シ一千八百七十二年ニ於ケル公使館ヨリノ廻文ノ趣旨ニ從テ一千八百七十八年間日本ノ外國貿易ノ要畧ヲ示スニ甲乙丙ノ符号ヲ以テ記載シタル畧記ヲ併ヤテ之レヲ閣下ニ奉呈スルノ榮ヲ有スルナリ
其表ノ條目ハ左ノ如シ

第一

輸入貿易ノ表

第二

輸出貿易ノ表

大正十一年四月

第三

船舶ノ表

第四

輸出入貨幣ノ表

第五

輸出入品稅ト船積手数料トノ表

第六

英國及ロ外國居留人ト其商社トノ表

輸入

一千八百七十八年

二万六千三百二十弗

一千八百七十七年

一万四千五百九十二弗

右一千八百七十八年ノ輸入額ヨリ一千八百七十七年ノ輸

入額ヲ減去スレバ一千八百七十八年ノ増額スル左ノ如シ

増額

一万千七百二十八弗

輸出

一千八百七十八年

六十八万八千九百四十弗

一千八百七十七年

四十四万六千六百五十三弗

右一千八百七十八年ノ輸出額ヨリ一千八百七十七年ノ輸

出額ヲ減去スレバ一千八百七十八年ノ増額スル左ノ如シ

増額

二十四万七千二百八十五弗

右ノ表ニ由テ見レバ輸出入共ニ前年ヨリ増加シタリ、雖モ若

シ官衙ノ貿易ニ干渉スルコトナカラシムルハ此増加尚ホ一層大ナ

ランコトハ余ノ固ニ信証スル所ナリ何ヲカ官衙ノ干渉ト云フ恰

モ政府ノ專賣ニ異ナラズル商務會社（シムラキ）按スルニ是レ現今ノ商

務局ヲ行シ其復ホスル勸高局ヲモ共ニ云フナランカ是レナリ

此局ハ今ヲ距ルコト二年以前ニ設立シタリ而シテ元ト此局ヲ

設立シタルノ主意ハ此島ノ產物ヲ生出スル諸州ノ住民ハ薄利
ノ前金ヲ貸與シ之レヲシテ其產物ヨリ得ルノ利益ヲ是迄ヨリ
モ尚ホ一層巨大ナラシム其事業ヲ發昌セシメンガタメナリ今
此主意何程實際ニ行ナハレシカハ之レヲ下段ニ記スベシ然リ
ト雖トモ此主意ノ實際ニ顯ハセシ利害ノ果シテ何程ナリシ乎
ヲ日本人ヨリ聞キ得ルハ至難ノ義ナリ其故何トナレバ日本人
ハ元來從順ニシテ政府ノ官吏ト紛紜ヲ醸スニ至ルカ如キ事ハ
一切為スヲ好マザル所ナレバ復々政府ノ意ニ逆フガ如キコトヲ
云フハ其嫌避ル所ナレバナリ
此局ハ始メ内務省ニ屬シタリシガ今轉シテ大藏省ニ屬シ名ヲ
商務局ト云ヘリ功シテ廣業商會ナルモノアリ箱館及ヒ日本内
地支那ノ諸港ニ於テ商務局ニ代テ事務ヲ取扱フ代理者タリ
右ノ政策ニ由テ實際ニ行ハル、情況ヲ觀ルニ此島東岸ノ各生

産地ニ於テ十分ナル財本ヲ所有シ之レヲ自己ノ開墾地ニ使用
スルヲ得ベキ僅々ノ住民ヲ除ク外ハ皆海草按スルニ昆布ヲ
指スナルベシ下コレニ做フ收獲ノ見込高ト前金貸下ヲ請願ス
ル所以ノ理由ヲ記シタル願書ヲ根室或ハ札幌ノ支廳ハ差出ス
支廳ハ此願書ヲ受取テ本廳ニ廻シ本廳ハ商務局ニ送付ス是ニ
於テ商務局代理者ハ願人ノ代人ノ到ルヲ待テ之レト一度商議
シ商議整ヘハ即テ望ミニ從フテ貸下願高ノ總高若シクハ其十
分一ヲ貸渡スコトニ交ス而シテ此貸下ハ箱館ト諸州トヲ論セ
ス皆同一ニ施セリ
右ノ貸渡シ前金ハ茲テ開拓使本廳或ハ其支廳ヨリ渡スモノト
ス而シテ商務局一度前金ヲ入ルニ貸ストキハ商務局代辦人其
人民ノ不獲シタル海草ヲ買取り之レヲ外國ニ賣捌クヲ以テ成
規トス

然リ而シテ右廣業高會ノ買上ル價直ト市價トノ間ニ二百五十
十^レビ^レコ^レルニ付十五四乃至三十九四ノ相違アルハ令一般ニ規則
トナレリ然リト雖モ住民ハ此^レヨリ拂渡ス價直ヲ受取ルノ
外他ニ手段ナキナリ其故何トナレバ住民一度前金ヲ借リタル
以上ハ仮令ニ價直ノ相違右ノ金額ヨリ甚シト雖トモ是非此價
格ニテ賣渡サバルバカラザルノ壓制ニシテ此レハ久ノ皆知ル
所ナルガ故ニ日本商人モ此レニ手ヲ出シ口ヲ入レント欲スル
モノナキニ因由スルナリ

儲テ此前金貸借ノ約定ニ條アリ即チ一ハ借主ヨリ年六分ノ利
息ヲ開拓使ニ納ムルトニシテ其二ハ海草ヲ上海ニ輸出シ其利
潤ノ内運賃等諸雜費ヲ引キ其餘ノ純益金一割以上ニ及フトキ
ハ之レヲ其海草ヲ出シタル住民中ニ分賦スルモノナリ然リト
雖モ今日ニ至ル迄未ダ其分賦金アリタルコトヲ聞カザルナリ

政府此局ヲ設立セザル以前ハ右ノ貿易ハ皆此地ノ商人ノ手ニ
テ為ス所ナリシガ此商人ハ皆利ヲ得ンタメ互ニ相競争シテ住
民ト各種ノ約定ヲ取結ハンコトヲ望ミタルヨリ住民ハ公平ノ價
格ヲ以テ其產物ヲ賣却スルヲ得タリ而シテ商人ノ此價格ヲ拂
フヤ半ハ貨幣ノ以テシ半ハ米蒔酒塩等ノ日用品ヲ以テセリ
然リ而シテ右商人ノ間ニ競争ノ行ナハル、甚々大ニシテ其成
果ハ右ノ如キ日用品ノ價直箱館中当地方ト各渙地方ト常ニ同
様ナルニ至レリ然レモ此局設立以來ハ其情況全ク変シ右ノ商
人此レヨリシテ後ハ自己ノ送遣スル日用品ニ自己ノ價直ヲ附
スル廣業高會ト競争スルヲ欲セス又競争シ能ハザルナリ
此ニ於テ住民ハ第一ニ自己ノ物ヲ低價ニテ賣ラザルヲ得
ザル、第二ニハ商人競争ノ止ミシヨリ高價ヲ拂フニアラザレ
ハ其日用品ヲ得ル能ハザルトニ由テ二倍ノ損失ヲ蒙ムレリ此

時ヨリシテ此地ノ商人ノ日用供給品ヲ住民ニ供スルヤ其代リ
 トシニ直キニ住民ノ物産ヲ得ルニアラザレバ決シテ之レヲ供
 ヤス適ク其物産ヲ引當テシテ前金ヲ辦償スルニ至ル迄ハ借主タル商人其
 ノ政府ヨリ借リシ前金ヲ辦償スルニ至ル迄ハ借主タル商人其
 貸金ノ返辨ヲ受ルコトヲ許サレス

右ノ次第ニ付住民ノ不平不満甚タ大ナリト雖モ之レヲ新聞誌
 ニ書シ或ハ政府ニ訴ヘテ邑間スルモノナキガ故ニ政府ハ依然
 トシテ此專賣ヲ保續スルノミナラス刺ハ漁獵肥料等ニ至ル迄
 更ニ專賣ノ權ヲ與ヘテ之レヲ許可スルニ至レリ故ニ此地ノ貿
 易ハ必ラス衰頹スベシト信ス余ノ調知スル所ニテハ此島ノ
 支那ノ輸出ハ更ニ増加セザルナリ何トナレバ余聞ク此報告
 ニ記シタル當港輸出増額ハ南方ノ開港場ヨリ輸出スル此島ノ
 産ノ減縮ニ由テ平均スルナルバシトナリ

右ノ如ク内國商人ノ困難ニ比例シテ外國商人ノ困難モ亦推知
 スベキナリ

船積

	船數	噸數
一千八百七十七年	七〇	二四、六七八
一千八百七十八年	五六	二四、一二〇
右一千八百七十八年ヲ以テ一千八百七十七年ニ比較スレ ハ其減スルヲ左ノ如シ	一四	五五八

此表ニ由テ見ルトキハ船舶ハ十四隻減シタリト雖モ噸數ノ減
 少ハ甚ハダ些少ナリ是レ他ノ港船ノ大船ナルニ因由スル
 ナリ

税関ノ報告ニ由レバ昨年日本汽船ノ入港ハ二百二十隻ニ下ラ

スシテ其噸數ハ拾七萬三千八百四十八噸ナリシヲ觀ル而シテ
其内ハ西岸ニ向テ出港ヤシモノモアリタリ

概況

大蔵省ヨリ更ニ一百二十五万田ノ定額増加アリテヨリ開拓使
ハ大ニ勢力ヲ得タリ
幌内ノ石炭礦ノ採掘ハ既ニ開業セリ幌内ハ札幌ヲ距ルコト西
南七十英里ニアリ米國ノ土木學士ハ幌内ヨリ石狩河口マデノ
間ニ運送道ヲ建築スルアリ石狩河ノ砂堤ハ從來大損害ヲ生ス
ルヲ以テ土木學士和蘭ヨリ來テ今回之レヲ修治ヤント企テリ
箱館市街ハ飲水ヲ供給ヤンタメ水道ノ工作ヲ起ヤリ其入費拾
四萬田ナレバ其装置廣大ナルヤ知ルベシ飲水ハ箱館ヲ距ル三
四英里ノ外ニアル小山ノ泉ヨリ引クナリ又失火ノ用意ノタメ
箱館山ノ嶺ニ大ナル貯水所ヲ作レリ全市街中毎三百乃至四百

ヤルドノ距離ニ於テ數ヶ所ノ水溜ヲ設置ヤリ

晴雨ニ係ラス船舶ノ船積陸揚スルヲ得シガタメ波戶場築造ノ
説アリ若シ此波戶場成就セバ船舶ハ瞬時ニ水ヲ供ヤンガタメ
前段謂フ所ノ貯水所ヨリ水管ヲ設ケラル、由ナリ其入費ハ右
二件合シテ四萬田ノ目算ナリ而シテ其金ハ開拓使ヨリ十ヶ年
賦償還ノ約束ニテ貸渡シ其償還ハ幾多ノ豪高ト一割ノ漁業稅
トヲ以テス而シテ此漁業稅ノ如キハ既ニ其額高ヲ納メ始マレ
リ
開拓使ハ洋風ノ逆旅舎ノ建築ニ着手セリ今札幌ニ於テ其舎殆
シト將ナニ落成ヤントス此建築ハ目今甚ハダ緊要ノコト、言
フベシ特ニ日本官員及ヒ外國人ハ最至要ノモノトス蓋シ当
地實ニ每家皆旅客ヲ止宿セシム然リト雖モ旅客ノ通行極メテ
夥多ナルヲ以テ每家寓客皆充塞シテ投宿ヤント欲スルモ殆ン

ト宿スヘキ所ナキニ至ルコト屢ナリ假令或ハ投宿スベキ開
散ノ家アルモ此等ノ家ハ日本官負殊ニ外國人ニハ適當セザル
ナリ
然リ而シテ右ノ事情ニシテ近來外國人夏季ノ間此処ニ避暑ニ
來ルモノ年々非常ニ増加シタマニ三菱汽船ヲシテ定期航海ヲ
開カシメ且ツ其賃金ヲ減額シテ十六回トナサシメタル程ノ
ナレバ年々洋人ノ此地方ニ來遊スルハ其負數ヲ増スベケレバ
洋風ノ客舎建築ハ最モ望ム所ナリ
當地ニ居留セル外國ノ一貴女アリ富豪ナル三人ノ日本人ニ向
テ頻リニ植物園ヲ設ケンコトヲ懇懇セシニ皆大ニ雀躍シテ之
レニ同意セリ蓋シ日本人ハ花ヲ好ムコト深ク特トニ外國ノ花
ハ最モ其悦フ所ナリ故ニ右ノ土人モ當時既ニ植物園ヲ設クル
ノ意アリシ所ナリト云フ而シテ右三兄弟ノ日本人ハ皆之レヲ

設クルノ方ヲ知ラス又諸種子ノ取扱方ヲ知ラス故ニ種子ヲ得
ルモ亦々如何トモスル能ハザルヲ以テ萬事右外國貴女ノ指圖
ニ從テ先ツ花園ノ圖ヲ畫シ其後花園ノ設置ニ適當ナル場所ヲ
撰定シ其許可ヲ開拓使ニ願出タリ
然ルニ開拓使ハ右ノ願ヲ受ケテヨリ其設置ニ干涉シ終ニ其植
物園ヲ変シテ公園ヲ設クルニ至レリ然レモ右外國貴女ハ尚ホ
其設置ニ付テ萬事ノ指圖ヲ為セリ
然リ而シテ此公園ヲ築クニ當テ市街ノ少壯ヲ徵シ開拓使ノ役
夫ニ交ハラシメ皆全一日ツ、順次ニ石公園ノ築造ニ勞カセシ
メ以テ公園ノ公園タル性質ヲ明ラカニセリ此ノ如ク全函館街
ノ住民ヲシテ盡ク一日ノ勞役ヲ盡サシムルニ際シ茶屋ノ藝妓
並ニ茶屋中ノ人皆盡ク築造ニ自カラ出テ一日ノ勞役ヲ為セリ
此藝妓輩ハ皆華美ナル衣服ヲ裝飾シ各十二人宛一組トナリ十

二條ノ繩ヲ以テ一石ヲ縛シ各繩端ヲ執リ全一日諸徑路ヲ挽キ
廻レリ蓋シ平地ヲ堅凝平滑ニセシカ為ナリ而シテ其勞作中雖
スニ放歌踏舞ヲ以テセリ此ノ如キ奇妙ナル情況ノ外ニ又或ル
日曜日ニ當テ上下ノ官負尽ク役夫ノ衣服ヲ着シ公園中富士山
ノ築造ヲ為セリ蓋シ此山ヲ園中ニ設ケサレバ日本人ハ完全ナ
ル花園ニアラスト信スルナリ

扱コ、ニ記載セザルベカラサルノ一大要件アリ余当地ノ小学
校ノ事ヲ報告シタルハ三年前ナリシカ今其校數大ニ増加シテ
箱館ニ於テ開拓使ハ十七個ノ学校ヲ有セリ其内近頃建築シタ
ルニ校最モ大ナリ其教師ノ數百六人アリテ之レヲ管督ス受業
生徒ハ男一千二百五十一人女四百三十人アリ其他箱館ニ私學
校アリ箱館外ノ地方ニ官學校アリ此官學校ノ數總テ三十個ニ
シテ教師五十七人受業生徒男一千五百六十九人女三百十二人

ナリ

昨年ノ始方ヨリ當地ニ於テ西京及ヒ其他ノ都府ノ如ク工業學
校ヲ設立シ茶屋ノ藝妓及ヒ其他ノ子女ヲ教育ス目今此學校ニ
個アリ女教師十八人アリテ三百十四人ノ生徒ヲ教育マリ其授
業時間ハ午前十一時ヨリ午後二時迄トス其課目ハ讀書數學習
字紡績織機裁縫洗濯ナリ此生徒ハ元ト皆愚蒙ナリシガ右學校
設立以來其品行大ニ改良シ全ク其面目ヲ開進ヤリト是レ其教
師ヨリ聞ク所ナリ月謝ハ甚々些少ニシテ且ツ其授業ニ出ルト
出サルハ各自ノ自由ナリ

永時懲役ニ処セラレタル犯罪者ハ現今其牢獄ニ於テ一周間ノ
中幾日カ自己ノ商業ヲ營ムコトヲ許サレ其餘日ハ守者ノ命令
ヲ奉ミテ道路ヲ掃除シ及ヒ其他ノ賤役ヲナス而シテ其外ニ出
ツルトキハ鉄鎖ヲ以テ胴ト足トヲ縛シ十二人程宛連珠シテ歩

行シ働クトキハ兩人宛繫ガル而シテ皆赫^赭色ノ衣服ヲ着ス此輩
ハ皆其勞作休憩ニ成規アルト戶外ニ運動スルノ多キト遊里ニ
其半時ヲモ遊蕩スルノ自由ヲ得タルトヨリ總体ノ日本人ヨリ
ハ却テ身軀健康ニシテ心意満足シ福祉一層大ナルマシト信ス
ルナリ此則テ罪囚取扱方法ノ大進歩ナリ

余数年前「バイルド夫人」ニ伴テ此牢獄ヲ見タルコトアリ「バイル
ド夫人」ハ各國旅行ノ間ニ許多ノ牢獄ヲ見タル人ナリシカ余ト
共ニ此牢獄ヲ見ルニ及ニテ其獄舎ノ清潔ナルニ驚キ内部規則
ノ善良ナルヲ歎賞セラレタリ然リト雖モ年限短キ罪囚若シク
ハ吟味中ニアルモノハ斯ノ如キ好キ取扱ヲ蒙ラザルナリ

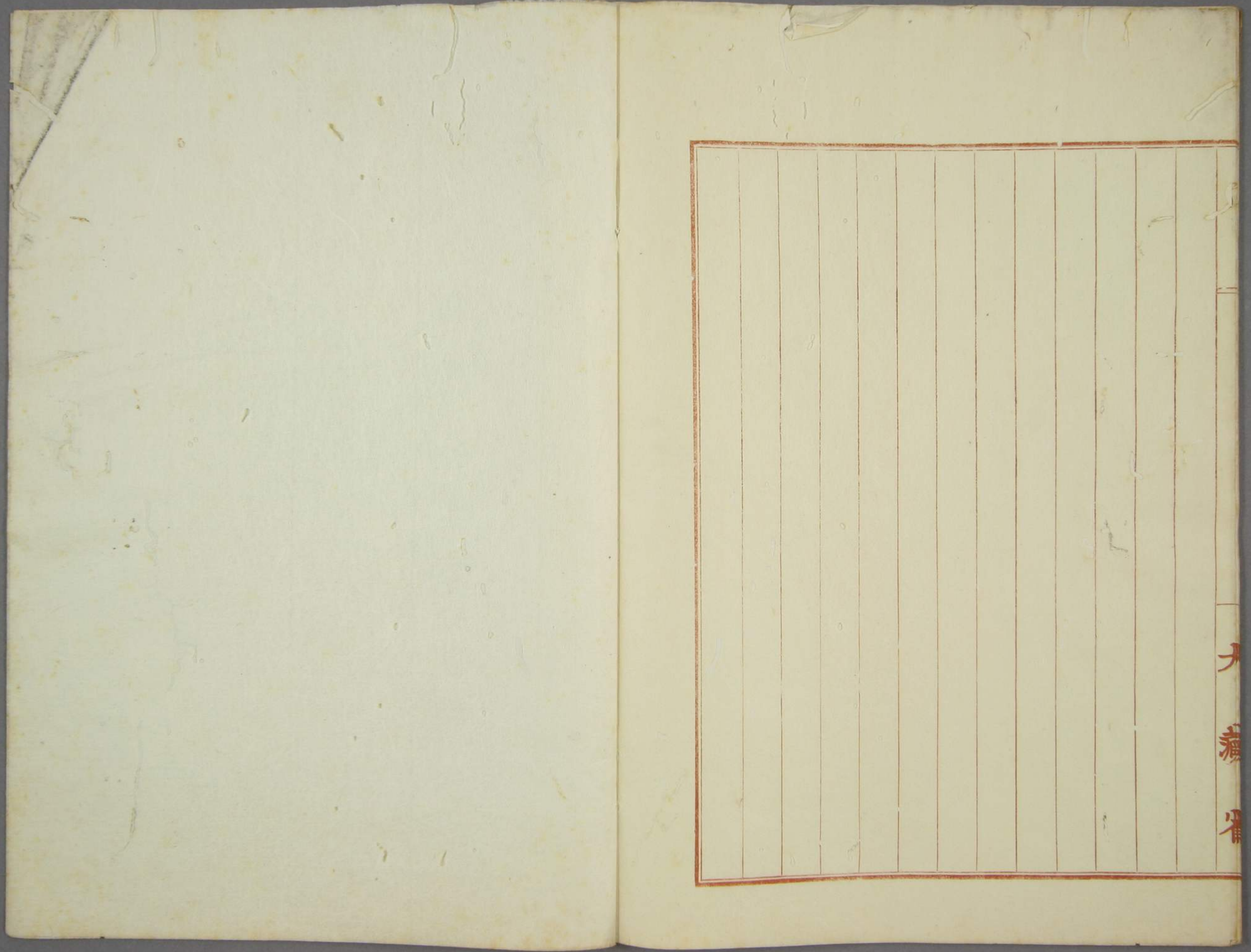
千八百七十九年四月三十日

箱館在留

英領事

テール、ユースデン

特命全權公使サー、バアリー、エス、パークス閣下



大
藏
書

